



# 市民が育てる「チェルノブイリ法日本版」の会 結成集会

みんなで守ろう、子どもの健康  
みんなで守ろう、私たちの未来

年 1mSv 以上の放射能汚染地域に  
「避難・移住の権利」「保養の権利」「医療・検診の保障」を目指し、  
市民の手で、みんなの住む町から  
チェルノブイリ法日本版の条例制定を行います

## 記念講演発言者紹介



### ウラジーミル・マグリシェフさん

チェルノブイリの高汚染地帯のチェチェルスク地区で体育の教師をしていたときにチェルノブイリ事故が発生。生徒たちの体調異変、小児甲状腺がんの発症などに危機感を感じ、NGO グループ「チェルノブイリの子どもたちに」参加。子どもたちを海外へ保養に出すために、さまざまな圧力のもと活動を続けた。

#### 講演内容

事故から3年たってようやく、旧ソ連は、汚染された国土の地図を発表。しかし、「放射能のせいではない、風土病である」と IAEA は発表（放射能のせいだと認めたのは10年後）この対応の遅れは多くの被害を深刻かつ増大させました。チェルノブイリ原発から150km以上はなれたゴメリ州チェチェルスク。体育の教師のウラジミール先生は子どもたちに起こった異変（小児甲状腺がんの増加など）を感じ、保養運動を開始。ました。先生の滞在地域の汚染は1999年当時15～45キュリー（約8,535～51,850Bq/kg）で、強制移住や自主的移住の対象地域で救援活動を続けた。



### の る み か 野呂 美加さん

NPO 法人チェルノブイリへのかけはし代表。32年前に起こったチェルノブイリ原発事故被災児童を1ヶ月間、空気や水のきれいな日本で保養させる活動を1992年に知人と始める。これまでに招待した子どもは、17年間で635人。2005年、国際交流基金より「地球市民賞」受賞。



写真はチェルノブイリへのかけはしHPより

## 結成の報告

- 結成の趣旨説明 柳原敏夫  
(ふくしま集団疎開裁判・元弁護団長)
- 挨拶 上野正美 (育てる会 共同代表) ほか
- 育てる会参加者によるリレートーク
- 質疑応答 記者会見

## チェルノブイリ法とは

チェルノブイリ原発事故後、被ばくによる健康被害が激増した5年目に被害者の要求を受けて、1991年、世界標準といわれる住民避難基準を定めた法律がソ連で制定、ソ連崩壊後3国（ウクライナ、ベラルーシ、ロシア）に引き継がれた。原子力事故から住民及び原発労働者の命と健康を守るための、いわば原子力事故に関する世界最初の人権宣言。

3月18日 (日)

明治学院大学白金校舎

白金台駅から  
[東京メトロ南北線 / 都営三田線]  
2番出口  
(白金高輪側 / エレベーター有) より  
徒歩約7分  
白金高輪駅から  
[東京メトロ南北線 / 都営三田線]  
1番出口  
(目黒側 / エレベーター有) より  
徒歩約7分



3月19日 (月)

参議院議員会館 1F会議室 (予定)

国会議事堂前駅  
丸ノ内線  
千代田線  
1番出口  
  
永田町駅  
有楽町線  
半蔵門線  
南北線  
1番出口

